



金沢医科大学氷見市民病院  
医療安全小委員会  
2016年5月27日 発行

## 新任紹介

4月1日より医療安全管理室室長の担当となりました脳神経外科の高田です。

前任の胸部外科、坂本先生から引き継ぎ、改めて委員会の重要性と作業の多さに驚いている次第です。坂本先生も本業は外科ですが、手術を安全に行うためには、様々な取り決めや、自分独自のルールがあります。この経験を参考にして、当院の医療安全の向上に寄与できればと考えております。さて、病院では安全確保のため、外来や検査では患者様にお名前を名乗っていただいております。先日こんなことがありました。同姓同名の患者様2人が検査の待合室で、偶然隣同士に座っていらっしやいました。手順を遵守しないと患者取り違えになる恐れが十分にありました。想定外のことは、想定するより日常で起こっていると痛感させられます。まだ手探りの状態ですが、今年1年何らかの成果が残せるように努力する所存です。ご助言、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



医療安全管理室室長 医療安全管理室課長  
院長補佐・脳神経外科科長 医療安全管理者  
高田 久 渡辺 いつ子

医療安全質向上!



平成28年4月に前任者より引継ぎ医療安全管理室配属となりました渡辺です。それからまもなく熊本地震が起こり被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。被災地の映像を見るにつけその痛ましさもさることながら復興に向けた全国各地からの支援に対し驚きを感じています。もし、熊本地震のような大規模災害が起こったら当院はどうなるのか予想もつきません。災害時訓練を行ってはいるものの十分な「備え」とは言えない現状にあると不安を感じます。「たぶん、大丈夫。何とかなる。」では済まないのが災害です。今回のことも含めこれからの医療安全管理室の役割の重さを痛感しています。

病院は、ある意味オーケストラに例えられると思います。どんなに個人の能力が優れていても他のパートと調和しなければ良いハーモニーや音色を奏することはできません。個人の能力はもとよりチームワークが必要ということです。チームワークが良ければ個人の能力以上のことが発揮できレスターのように奇跡の優勝をすることもありうるのです。当院もそのようなチームワークを発揮して患者さんの医療安全を守り安全で質の高い医療の提供ができると信じています。

回覧																			

医療安全通信は、各部署で回覧サインし、保管をお願いします。

## 院内における医療安全対策への取り組み

### 1、褥瘡対策への取り組み ～皮膚排泄リンクナース～

皮膚排泄リンクナースの活動を紹介します。「褥瘡を作らない」「持ち込み褥瘡は治す」を目標に活動しています。毎月1回第2木曜日に皮膚科渡邊医師を中心に皮膚排泄リンクナース、薬剤師、管理栄養士、リハビリ担当者が集まり院内の褥瘡保有者のラウンドを実施しています。そこでは、難治性、重症褥瘡に対し治療法、マットレスの選択、栄養面などを検討し、治癒、予防を中心に活動しています。同時にマットレス、体交枕、除圧クッションが適正に使用されているかを調査する環境ラウンドも実施しています。褥瘡について何かお困りのことがありましたら、皮膚排泄リンクナースまでよろしくお願いします。



### 2、医療機器安全管理への取り組み ～ME部～

平成19年より、全国の医療機関に医療機器安全管理責任者が配置されています。病院が管理する全ての医療機器を医療機器安全管理責任者を中心に安全管理しなさいといった内容です。当院では臨床工学技士が医療機器安全管理責任者を担当し、ME部が医療機器の管理をしています。具体的には、院内の汎用医療機器を共用機器としてME部で一括管理し、過不足のない効率的な貸出運用、保守点検、機器の標準化（機種統一）、安全使用のための職員への教育、情報収集を行っています。

これらの業務により現場へ信頼性の高い機器を貸出し、効率性、安全性を高める役割をしています。

